

決算説明資料

(2017年12月期 決算)

2018年2月9日
東証2部

オーナンバ株式会社

目 次

ONAMBA CO.,LTD.

- I . 決算の概要(PL、BS、CF等)
- II . 2017年12月期のトピックス
- III . 2018年12月期の経営戦略
- IV . 2018年12月期の業績予想

I. 決算の概要

ONAMBA CO.,LTD.

〔連結損益〕

(単位:百万円)

科 目	前連結会計年度		当連結会計年度		増 減		2017年2月3日 公表した当初 業績予想数値
	金 額	構成比	金 額	構成比	金額	増減率	
売上高	36,896	100.0%	36,432	100.0%	△463	△1.3%	35,000
売上原価	30,078	81.5%	30,392	83.4%	313	1.0%	—
販売費・一般管理費	5,604	15.2%	5,560	15.3%	△44	△0.8%	—
営業利益	1,213	3.3%	480	1.3%	△732	△60.4%	1,100
営業外収支	△140	△0.4%	199	0.5%	340	—	—
経常利益	1,072	2.9%	680	1.9%	△392	△36.6%	1,100
親会社株主に帰属する 当期純利益	△363	△1.0%	396	1.1%	760	—	600

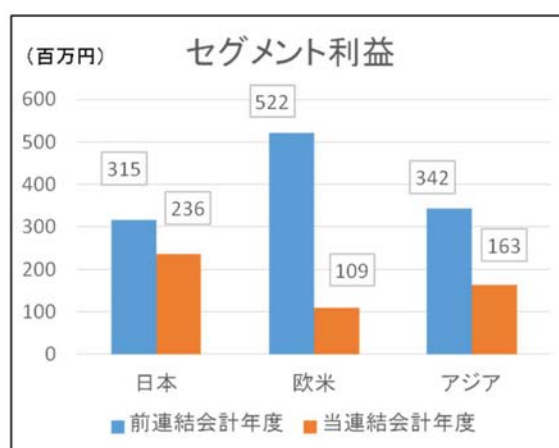
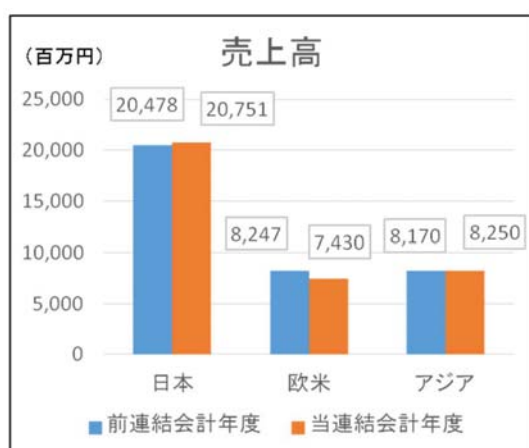
2017年度は中期経営計画PROGRESS2020の初年度で成長戦略として自動車、エネルギー、産業機器、ライフサイエンス分野での事業拡大・グローバルでの営業力強化・新規システムの事業化に着手

- 《売上高》 重点分野の自動車用・産業機械用ハーネスなどの拡販により、当初の業績予想数値は達成前連結会計年度の売上高に対しては、新エネルギー部門の太陽光発電関連製品の売上高減少をカバーできず1.3%減少
- 《営業利益》 太陽光発電関連製品の売上高の減少、下半期の新製品切替時期の延期・在庫調整による品種構成の悪化や生産拠点の再編・移管などによる生産コスト増加により営業利益は減少
- 《当期純利益》 親会社株主に帰属する当期純利益は396百万円の黒字へ転換

3

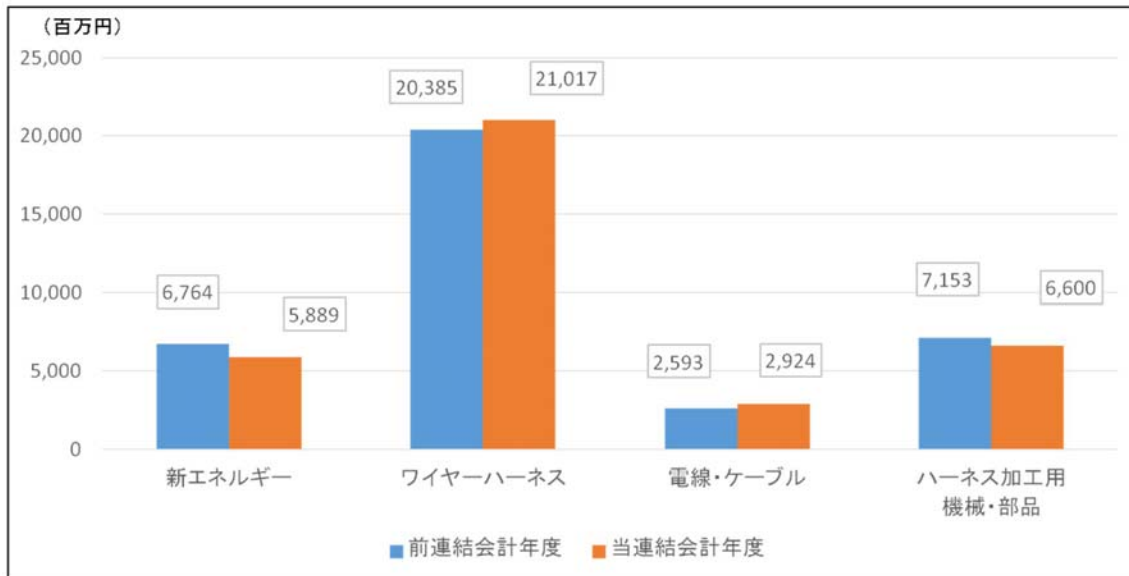
セグメント情報

ONAMBA CO.,LTD.



- 《売上高》 日本は、太陽光発電関連製品は減少したが、ワイヤーハーネスや電線などが増加したことにより微増
欧米は、自動車用ワイヤーハーネスは増加するも、太陽光発電関連製品の減少により、前連結会計年度より減少
- 《セグメント利益》 日本は、太陽光発電関連製品の売上高減少及び開発投資が増加したことによりセグメント利益は減少
欧米は、太陽光発電関連製品の売上高減少及びメキシコ第2工場への投資によりセグメント利益は減少
アジアは、ハーネス加工用機械・部品製品の新製品切替時期の延期などによる売上高減少により、セグメント利益は減少

4

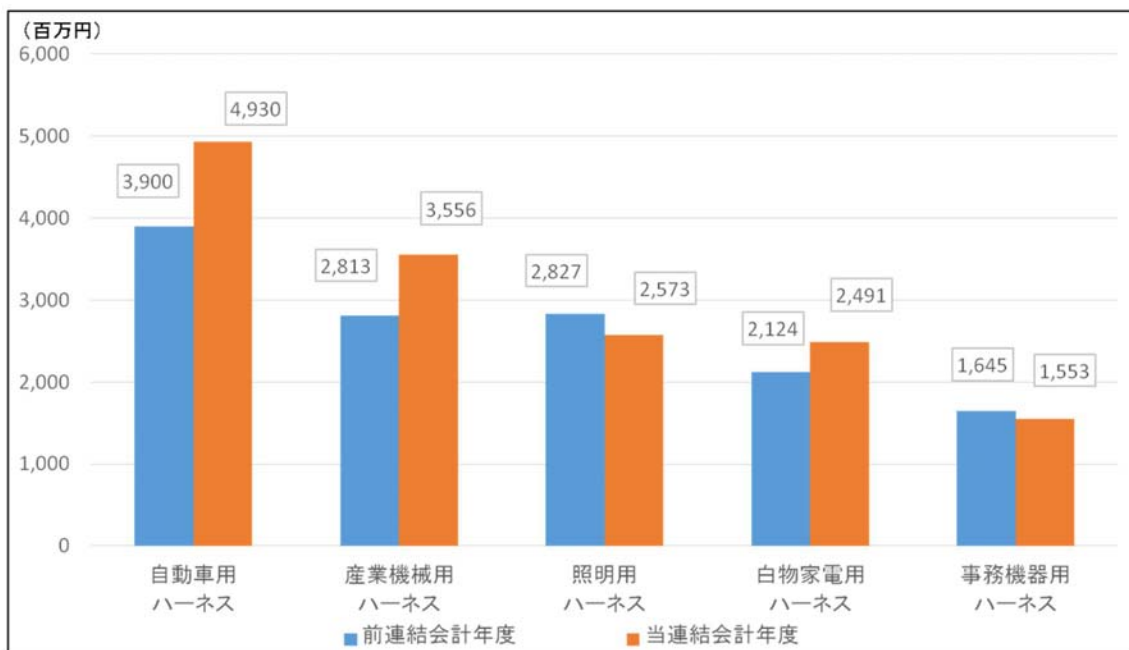


新エネルギー部門の売上高は、太陽光発電関連製品の需要の低下によって前連結会計年度より13%減少
ワイヤーハーネス部門は、グローバルでの営業力強化により重点分野である自動車・産業機器用製品の売上高が増加

5

ワイヤーハーネスの主な製品別売上高

ONAMBA CO.,LTD.



自動車分野では、車載ハーネスが日本及び欧米で好調に推移し26%増加
産業機械用分野では、特に産業用ロボット関連ハーネスが日本及びアジアで49%増加

6

◆設備投資

有形固定資産取得額	660百万円
減価償却費	544百万円

(主な投資内訳)

・国内子会社のハーネス加工用機械・ 部品の製造設備等	175百万円
・北米子会社のワイヤーハーネス 製造設備等	100百万円
・国内子会社の電線製造設備等	62百万円

◆人員の推移

(人)

2016年12月末	2017年12月末	増 減
4,247	4,241	△6

7

連結財政状態(主要な科目)

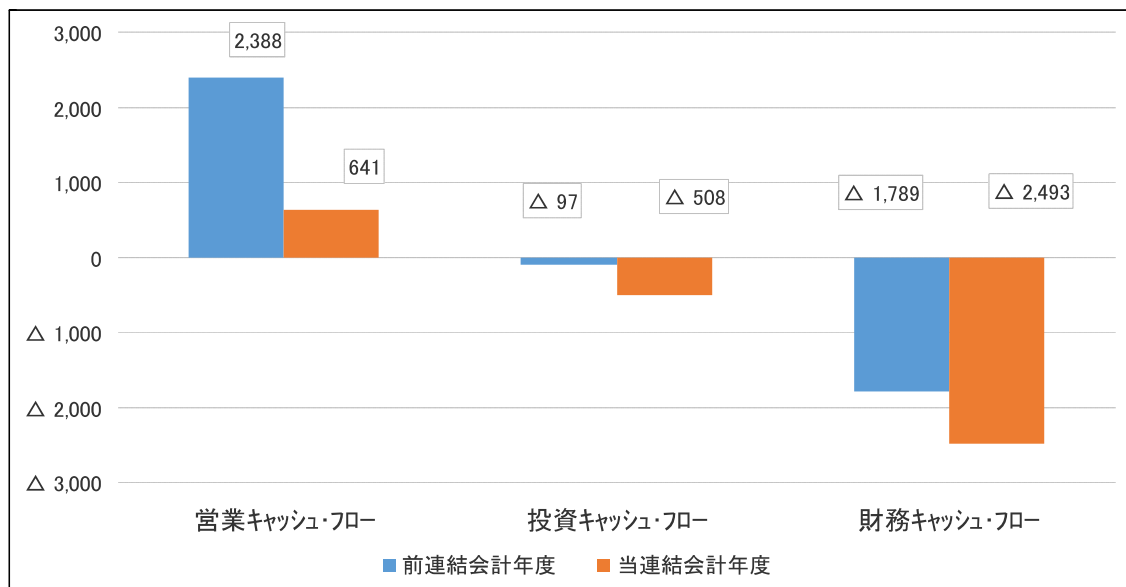
ONAMBA CO.,LTD.

(単位:百万円)

科 目	2016年12月末		2017年12月末		増 減
	金 額	構成比	金 額	構成比	
流動資産	22,914	76.5%	21,444	74.3%	△1,470
（現金及び預金）	6,049	20.2%	3,720	12.9%	△2,329
（売掛債権）	10,990	36.7%	10,819	37.5%	△170
（たな卸資産）	5,321	17.8%	6,077	21.1%	756
固定資産	7,037	23.5%	7,422	25.7%	385
（有形固定資産）	4,998	16.7%	5,009	17.4%	10
資産合計	29,951	100.0%	28,867	100.0%	△1,084
負債	14,617	48.8%	13,104	45.4%	△1,513
（買掛債務）	6,296	21.0%	6,798	23.6%	502
（有利子負債）	5,822	19.4%	3,587	12.4%	△2,234
純資産	15,334	51.2%	15,762	54.6%	428
負債・純資産合計	29,951	100.0%	28,867	100.0%	△1,084

グループ内資金の有効活用を図り、有利子負債の圧縮を積極的に進めた結果、総資産は1,084百万円減少し、自己資本比率は49.2%から52.5%へ向上

8



営業キャッシュ・フローは、利益の減少や運転資金の増加などにより641百万円の収入
 投資キャッシュ・フローは、清算に伴う有形固定資産売却の減少により508百万円の支出
 財務キャッシュ・フローは、借入金返済などにより2,493百万円の支出

9

Ⅱ. 2017年12月期のトピックス

1. 新製品／新規顧客の開拓: 売上高46億円

項 目	実 績
車載用ハーネス	16億円
太陽光関連製品	13億円
産業機械用ハーネス	10億円
その他	7億円
合 計	46億円

2. メキシコ第2工場の第2期拡張工事完了と量産立上開始

3. 産業用ロボット関連事業の販売拡大

4. 独自のIoT-GateWay (IoT-Finder[®])の開発完了

・IoT-Finder[®]搭載の蓄電池システム上市／設備故障診断システム開発

5. 太陽光発電故障診断高度化システムを開発

1. 新製品開発・開拓の促進

- ・エネルギー／自動車／産業機器／ライフサイエンスの開発・開拓
- ・システム事業のニーズ発掘(新規の商材)

2. ものづくり改革の推進

- ・新教育制度のグローバル展開拡大
- ・ワイヤーハーネス生産管理システム(ORP)のグローバル展開拡大
- ・生産設備自動化のグローバル展開／加速

3. 経営体質の強化

- ・基幹システムの改善
- ・変化対応力のある機動的な組織への転換

11

Ⅳ. 2018年12月期の業績予想

連結損益予想

(単位:百万円)

	2017年12月期 (実績)	2018年12月期 (予想)	増 減
売 上 高	36,432	37,000	568
営 業 利 益	480	1,000	520
経 常 利 益	680	1,000	320
親会社株主に帰属する 当期純利益	396	550	154
配 当 金	10円	11円	1円

製品別売上予想

(単位:百万円)

項 目	2017年12月期 (実績)	2018年12月期 (予想)	増 減
新エネルギー	5,889	4,100	△1,789
ワイヤーハーネス	21,017	23,000	1,983
電線・ケーブル	2,924	3,300	376
ハーネス加工用機械・部品	6,600	6,600	—
合 計	36,432	37,000	568

12

本資料の将来予想に関する記述は、経済情勢や社会情勢の変化により、実際の業績と異なる場合があることをご承知おき下さい。